



12/15

精一杯、田原本町を盛り上げていきます！
酒井藍さんが「たわらもとPR大使」に就任



たわらもとPR大使 酒井藍さんからメッセージ

3年間広報大使として務めさせていただき、そして新たに「たわらもとPR大使」として任命していただいて本当にうれしいです。このまちには本当においしいものがめちゃくちゃあるので、それをもっと伝えていきたい！

今は大変な時期ですけど、こんなときこそ後ろを向かずに前を向いて、手を取り合って頑張っていけないといけません。これからも精一杯、田原本町を盛り上げていきますので皆さん応援よろしくお願いします！

12 森町長、竹邑議長よりたわらもとPR大使の委嘱状とたすきが渡されました **3****4** 酒井藍さんの同級生である上田智之さん（上田農園）と一緒に、町産いちごの試食PR **5** このまちにはおいしいものがいっぱいあるんです…もっと伝えていきたい！ **6** 道の駅レスティ唐古・鍵1階でも特産品などをPR **7****8** 道の駅レスティ唐古・鍵ご利用60万人達成を記念して、認定書・記念品の贈呈、記念撮影が行われました



プロフィール

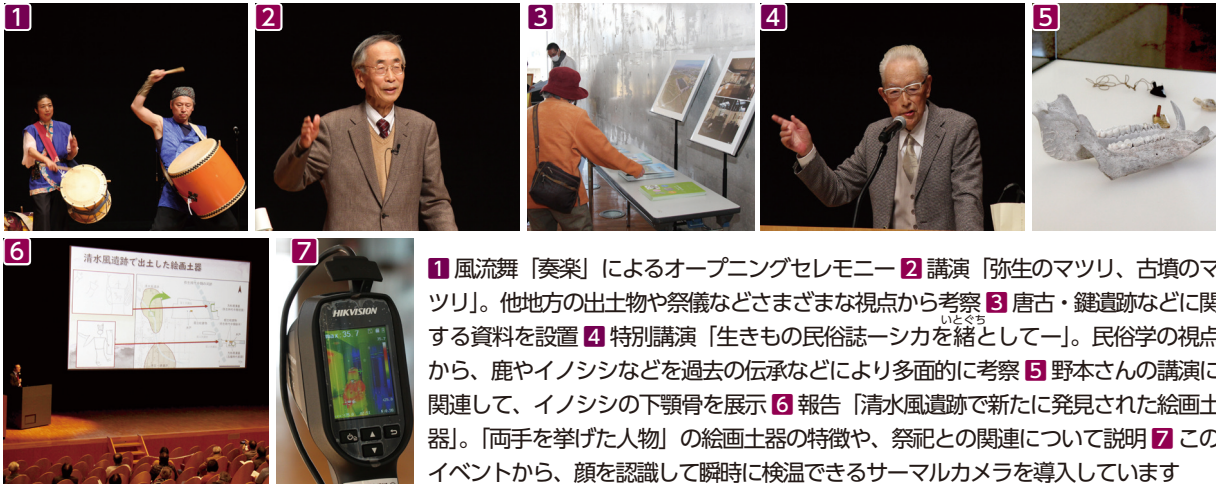
酒井藍さん（吉本興業株式会社所属）

昭和61年9月10日生まれ

東小学校・田原本中学校を卒業

- 平成19年9月…吉本新喜劇「第3個目金の卵オーディション」合格。吉本新喜劇入団。
- 平成27～28年…関西テレビ「よ～いドン」・毎日放送「ちんぷいぷい」など多数のテレビ番組に出演。
- 平成29年7月26日…吉本新喜劇・座長就任。
- 平成29年12月11日…たわらもと広報大使就任。

令和2年12月11日より3年間、田原本町出身のタレント・酒井藍さん（吉本興業株式会社所属）が「たわらもとPR大使」に就任されました。同月15日に、道の駅レスティ唐古・鍵でその委嘱式が行われ、酒井藍さんから、たわらもとPR大使にかけると熱い思いを語っていただきました。そして、田原本町の特産品や、それらを使った一押しメニューの紹介など、まちの魅力の品を思う存分PRしていただき、大使としての活動を華々しく開始されました。今後、町の特産品や歴史、文化など、さまざまな分野からまちの魅力を積極的にPRしていただきます。



1 風流舞「奏楽」によるオープニングセレモニー 2 講演「弥生のマツリ、古墳のマツリ」。他地方の出土物や祭儀などさまざまな視点から考察 3 唐古・鍵遺跡などに関する資料を設置 4 特別講演「生きもの民俗誌—シカを緒として—」。民俗学の視点から、鹿やイノシシなどを過去の伝承などにより多面的に考察 5 野本さんの講演に関連して、イノシシの下顎骨を展示 6 報告「清水風遺跡で新たに発見された絵画土器」。「両手を挙げた人物」の絵画土器の特徴や、祭祀との関連について説明 7 このイベントから、顔を認識して瞬時に検温できるサーマルカメラを導入しています

12/26

桜井市・田原本町共催シンポジウム「卑弥呼のクニを探るⅢ」
弥生のマツリ・古墳のマツリを語る

シンポジウム「弥生のマツリ・古墳のマツリ～唐古・鍵と纏向のマツリ～」パネリスト



元同志社大学教授 辰巳和弘さん
近畿大学名誉教授 野本寛一さん
桜井市教育委員会文化財課長 橋本輝彦さん
田原本町埋蔵文化財センター長 藤田三郎
田原本町教育委員会文化財保存課係長 柴田将幹

名古屋・大阪に続き3回目の開催となる今回は、令和元年6月に「両手を挙げた人物」の絵画土器が町の清水風遺跡から出土したこともあり、弥生時代古墳時代のマツリをより深く掘り下げる内容で議論が展開されました。



シンポジウムでは、特別講演や報告を受けてコーディネーターの辰巳さんからさまざまな質問がパネラーに問いかげられました。

弥生時代のマツリの重要な要素であった絵画土器について



清水風遺跡の「両手を挙げた人物」画の人物について、柴田は「鳥装をした女性司祭者（シャーマン）」であると推測しました。

また「鳥」がなぜ重要だったのかについて、野本さんは民俗的な視点から、太陽の力を招く動物とされたのではないかと推測しました。

さらに絵画土器に最も描かれている「鹿」について、川に入る、水を探すその生態が水と親和性を示すこと、1年で生え変わる角のサイクルが稲の成長と合致することや鹿の子斑が「米」を表しているという民俗例から、霊獣として位置づけられたのではないかとしました。

唐古・鍵遺跡や纏向遺跡で見つかった大型建物跡について

これについて、藤田は穀霊を宿す神聖な建物であり、唐古・鍵遺跡の建物の方向が冬至の日の出の時に三輪山から昇る向きに建てられたという説を紹介し、また橋本さんは、纏向遺跡の大型建物跡について斎藤岳（万葉集に詠まれた山。三輪山の北に位置する）の方向に向いているという説を紹介しました。

唐古・鍵遺跡や纏向遺跡より出土したイワシやタイなどの海魚、カエルの骨について

これらは邪気を払うとされるモモ核や、纏向遺跡では木製仮面とともに出土していることから祭祀性のある遺物とみなされています。考古学的にはなかなか推測できない遺物ですが、野本さんは、塩との関係から「清め」、またカエルについては、春に冬眠から覚め土中から出てくることから、鹿の角と同様「再生」の意味があったのではないかとしました。



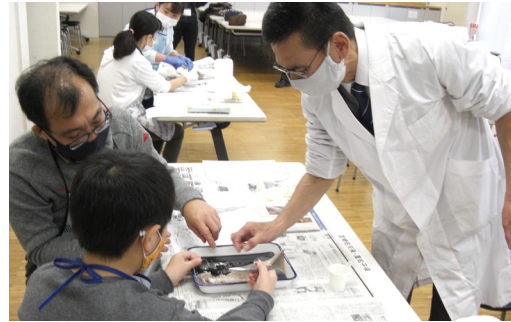
これらのことから、マツリの重要な要素である稲の成長・豊穡について、考古学と民俗学的観点から見ると「再生」というキーワードから、さまざまな「生きもの」が導き出されました。



安田隆子さんが、第48回奈良県障害者作品展の絵画の部で優秀賞を受賞したことを報告するため、森町長を表敬訪問しました。安田さんは「急なことで本当にびっくりしました。まさかもらえるとは思っておらず、嬉しくて涙が出ました」と受賞の喜びを語りました。

12/22

受賞報告のために表敬訪問 県作品展で優秀賞



親子のコミュニケーションを高め、家族の絆を深めることを目的に、親子ふれあい体験教室が開催され、8組の親子が参加しました。参加した親子はイカの体の構造をひとつひとつ確かめながら、ピンセットや解剖ばさみを使って解剖をし、家ではできない体験に夢中になって取り組んでいました。

12/5

親子ふれあい体験教室 イカの解剖に挑戦！



ボーイスカウト磯城第一団の伊藤彰夫さん（育成会長）、城戸琢磨さん（委員長）、隊員の高原航太さん、矢野良次郎さん、吉原秀さんが町役場を訪れ、同団の歳末助け合い募金で集まった募金を寄附されました。コロナ禍により街頭募金が困難な中で、会員より寄附を募り募金を集められました。

12/24

ボーイスカウト歳末助け合い募金 少しでも、誰かの力に



田原本小学校運営委員会の児童から手づくりカレンダーが寄贈されました。同校では毎年、お世話になっている人たちに感謝の気持ちを伝えるため、全児童がカレンダーを制作し届けています。児童たちは「皆で協力して作りました。使ってもらえたらとても嬉しいです」と思いを述べました。

12/9

手づくりカレンダー寄贈 皆で協力して作りました



▲米田さん（写真中央）と山口さん（写真右）
長年にわたる地域社会づくりへの貢献が評価され、ボランティアグループぶりっじが厚生労働大臣表彰を受賞しました。同団体メンバーの米田正子さんと山口朱實さんが森町長を表敬訪問し「身に余る光栄です。皆さんに支えていただいたおかげです」と喜びを語りました。

12/25

厚生労働大臣表彰を受賞 地域社会への貢献が評価



県立磯城野高校ヒューマンライフ科の生徒が、図書館でおはなし会を行いました。「きよしこの夜」のハンドベル演奏「クリスマスツリー」など絵本の読み聞かせや「あわてんぼうのサンタクロース」のパネルシアターが行われ場内は大盛況。子どもたちからは喜びの声がありました。

12/19

高校生が読むおはなし会 お話に夢中になりました